

平成20年度「小中高 夢のかけ橋推進事業」実施報告書

東京都立多摩工業高等学校
全日制課程

1 計画の概要

福生市立福生第五小学校との授業連携は、地域に開かれた学校を目指し、地域との様々な交流活動を推進するためにスタートし、今年度で5年が経過した。本校生徒の小学生との交流経験により、教えることの楽しさや難しさを学ぶ中で、コミュニケーション能力や学習意欲の向上、そして生徒自身が自信をもつことなどの効果が期待できる。小学生にとっては、様々なテーマで「ものづくり」の楽しさや面白さを学ぶことができる。地域の小・中学校の児童・生徒との交流は、工業高校の特色である「ものづくり」の楽しさを伝えるとともに、思いやりの心や社会性など豊かな人間性の育成を目指し、次の事業を実施する。

①福生第五小学校との交流授業

小学校の4～6年生の児童に、本校環境化学科3年生が案内者や指導者となる「校内見学」や「ものづくり教室」を通して交流をする。

②高校教員による訪問授業

地域の中学校へ訪問授業を実施する。

2 実施内容

- ・7月9日（水）、近隣の小学校4年生48名が、本校3年生を案内役として、本校ペットボトルリサイクルシステムや屋上の太陽光発電パネル（写真）などの見学、「おもしろ化学演示実験」（DNA抽出実験とマイクロ顕微鏡を使ったミクロ世界実見）を体験した。
- ・9月～2月に、あきる野東中学校、瑞穂第二中学校などで本校教員による訪問授業を行った。
- ・10月22日（水）、本校3年生が指導者となる「ものづくり教室」で近隣の小学生との交流を行った。小学校5年生46名の希望ごとに「ねり香水」、「七宝焼き」、「キーホルダー」など6テーマに分かれて交流した。
- ・11月16日（水）、近隣の小学6年生40名の希望する6テーマに分かれて交流を行った。



3 成果と課題等

【成果】

- ・「ものづくり教室」では、高校生も小学生も、初めはお互いに緊張していたが、実験を進めるうちにやがてうち解けて、とても和やかな雰囲気でものづくりを楽しめたようだ。
- ・高校生はものを教える難しさと楽しさを学び、後日小学生からお礼の手紙をもらい自分たちの経験に喜びと自信を得られたと思う。少子化の進む中で年齢層の異なる高校生と小学生が交流したことは双方にとって良い体験となった。
- ・本校で平成15年度から始めた福生第五小学校との交流も5年目を迎え、定着した行事となっている。少しずつではあるが、地域に開かれた学校として、その成果が現れている。

【課題】

地域にあるほかの小学校とも連携を図り、地域の輪を広げたい。また、高校生が小学校に出向いて活動する機会を設定することも今後の課題である。

